



# 亀中だより

No.2

令和4年4月12日 文責 岡田



For The Students!

## シンプルでピュア、子どもの世界から学びたい!

ロシアによるウクライナ侵攻が始まって1か月余り、避難民は日毎に増加しています。ある調べではウクライナから近隣国への避難民の数は3月29日時点で400万人を超えたそうです。

ここからの話は「ほ・とせな NEWS」というネットニュースの記事ですが、とても心が温まるお話です。ご一読ください。

3月17日、スペインのサンタンデル市にあるサルディネロ小学校は、3人のウクライナ人の生徒を受け入れました。2年A組のクラスに転入した8歳のミラ・メルニクちゃん(仮名)。父親はウクライナに残り、3歳の妹と母親とともにスペインへやってきたといいます。

転入初日。スペイン語の分からないミラちゃんを率先して助けたのは、同じクラスのロシア人の男の子アンドレイ・コトフ(仮名)くんでした。「ウクライナ語とロシア語は似ているから、ぼくが手伝うよ!」



そう名乗りをあげたアンドレイくんは、ロシア語が少し理解できるミラちゃんを積極的にサポートしています。「初日は携帯の翻訳アプリで対応しました。次の日からはアンドレイが進んで通訳をして助けてくれました。『校庭に遊びに行こう!』と声をかけたり、『今からみんなでこれするよ』と説明したり。ミラが来て、アンドレイもとてもうれしそうにしています。ミラを助けていることが自分の自信にもつながっているようです」そう語るのは担任のモンセ・ラット先生。21人の生徒を受け持っています。(以下省略)

右上の絵はクラスみんなが彼女を迎い入れるために作ったウエルカムボードにアンドレイくんが描いたカードだそうです。そこには、ウクライナの国旗とロシアの国旗、下には両国の代表が手を繋いでいる絵が描かれていました。アンドレイくんも戦争が行われていることを理解していることがわかります。その絵からはアンドレイくんの社会への願いも見え隠れしますが、子どもの世界はとてもシンプルでピュア。言葉の壁もあっさりと乗り越え、新しい友達ができたと素直に喜び、一日一日を心地よく、楽しく過ごす。小学2年生の子どもが描いた一枚のカードやその生活ぶりから、大人が教えられることの大きさに圧倒されます。

亀山中学校は市内の外国人生徒の拠点校で、教科学習の前、あるいはそれと並行して、日本語の学習が必要な子どもたちが学ぶことのできる日本語教室があります。このことは亀山中学校の大きな強みとなっています。身近に様々な国の子どもたちとふれあう機会が自然と生まれ、他国の文化、言語などを知り、つながり合うことを肌で感じるすることができます。この春からはヒジャブをまとう新しい仲間も入学してくれました。それぞれの国や人たちが大切にしている文化や考えを尊重しながら共生していく社会、その姿がここにはあります。